様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年５月１２日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2006～2008
課題番号：１８７２００６４
研究課題名（和文）２０世紀ロシア文学の連続的な生成プロセスの様態

研究課題名（英文）The Dynamics of20th Century Russian Literature

研究代表者
鴻野　わか菜（KONO WAKANA）
千葉大学・文学部・准教授
研究者番号：５０３５９５９３

研究成果の概要：
20 世紀ロシア文学の連続的な生成プロセスの様態についての第 1 の研究成果は，アンドレイ・ベールイを中心とするロシア象徴主義文学における 19 世紀文学の継承性，社会主義リアリズムとの関係性を指摘し，「ソ連象徴主義」の形態を具体的に明示したことである。第 2 の研究成果は，1960 年代の「非公式文学・文化」におけるテクストとソ連時代の「公式文学」，社会との関係性を，イリヤ・カバコフを中心に例示したことである。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	2,200,000	0	2,200,000
２００７年度	700,000	0	700,000
２００８年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,600,000	210,000	3,810,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)
キーワード：ロシア文学，ロシア文化

１．研究開始当初の背景

従来，20 世紀ロシア文学史は，1900-1910 年代のロシア象徴主義，1920-30 年代のロシア・アヴァンギャルド文学，1930 年代以降の社会主義リアリズムという複数の時期に分けて捉えられ，諸流派の相関関係が軽視されてきた。本研究課題の全体の構想は，20 世紀のロシア文学の諸流派の相関関係を，文芸技法という外面的様相と，作品の主題（象徴主義から社会主義リアリズムまで形態を変えながら受け継がれるユートピア的な想像力）という内面的様相の 2 つの視点から示し，20 世紀ロシア文学史の連続性を明示し，文学史の新たな枠組を構築することである。

２．研究の目的

第一の目的は，20 世紀ロシア文学史の枠組を捉え直す上で鍵となる代表的な作品における，文学技法の独創性，継承性の問題と，作

家の個人的想像力と歴史の枠組の関係を詳細に研究し，作品の独自性と相関関係を明らかにすることである。そのことによって，特定の文学流派の特徴とされてきた文学技法，主題がいかに継承，展開され，次世代の文学を生み出していったかについて明らかにする。

第二に，上記のような文学の状況が，児童文学，美術，出版，社会・政治的状況とどのように対応していたのかを明らかにするために，文学と周辺分野の相関関係を研究する。具体例な研究テーマのひとつは，文学と児童文学の相関関係の研究である。ロシア 20 世紀児童文学も，政治・社会の変遷と共に，技法とユートピア的な想像力の内容を大きく変化させたジャンルであるが，従来の研究では，ロシアではとりわけ重要なジャンルである児童文学についての視点が決定的に欠けていた。本研究ではこの分野でも先駆的な研究を行い，児童文学史と文学史を融合させ，文芸を総合的な構図で捉えることを目的としている。

３．研究の方法

研究テーマに関する資料収集，資料読解を行い，国内外の学会で発表し，内外の研究者と意見交換を行った。また，2008 年 7 月には，ロシア人文大学ワレーリー・チューパ教授と討議を行い，ベールイのジャンルの問題についての考察を深めた。

４．研究成果

20 世紀ロシア文学の連続的な生成プロセスの様態について，以下のトピックスを中心に研究した。

第一の研究成果は，アンドレイ・ベールイを中心とするロシア象徴主義における，19 世紀文学の継承性，社会主義リアリズムとの関係性を指摘し，「ソ連象徴主義」の形態を具体的に明示したことである。この問題に関してロシア語論文を執筆し，単著の一部を執筆した。それと関連して，ロシアとグルジアの象徴主義運動の関連についても資料を収集し，1920 年代のチフリスの文学状況について，ニコ・ピロスマニの作品との関係を中心に，亡命文学も視野に入れつつ小論をまとめた。

第二に，ロシア東欧系ユダヤ人作家の作品における「文学と現代美術の連続性」についての研究を進め，ロシア東欧系ユダヤ人作家の作品におけるテクストと表象の関係をポストモダンの潮流，民族的主題等に着目しつつ分析した。

また，1960 年代の「非公式文学・文化」におけるテクストとソ連時代の「公式文学」には，どのような相互関係があり，社会との関係・主題・モチーフ等においていかなる「連続性」があったのかについてイリヤ・カバコフを中心に研究し，3 度の研究発表を通じて，国内外の研究者との意見を交換した(発表「イリヤ・カバコフのトータル・インスタレーションにおけるリアリティ」《第 2 回スラヴィアーナ・シンポジウム:創作におけるリアリティ-ロシア・ソビエト文化と現在》2006 年 7 月 28 日・於東京外国語大学本郷サテライト，発表「1960 年代のコンテクストにおけるモスクワコンセプチュアリズム」2006 年 1L 月 17 日 1960 年代社会文化現象国際セミナー・於モスクワ・国立ロシア人文大学，発表「ロシア系ユダヤ人非公式芸術家の世界観」北海道大学スラブ研究センター 2006 年度冬季国際シンポジウム《Beyond the Empire：Images of Russia in the Eurasian Cultural Context》2006 年 12 月 15 日・於北海道大学スラブ研究センター)。

また研究成果の一部を論文「ロシア系ユダヤ人非公式芸術家の世界観」（ロシア語）として発表した。これらの報告，論文において，1960 年代非公式文学・文化サークルにおける外部の「言葉」との連続性，言葉・テクスト・表象の発生のプロセスを考察した。

第三に，イリヤ・カバコフの絵本を通じてソ連の児童文学と美術の連続性について研究を進めた。とりわけ，ウクライナ系ユダヤ人であるイディッシュ語作家ブジ・オレフスキーの児童文学作品『オーシャと友達』のソ連の児童文学界における役割と，ウクライナ系ユダヤ人作家イリヤ・カバコフによるオレフスキー受容の問題を詳細に研究した。カバコフによる『オーシャと友達』の挿画・下絵と，ユダヤ系作家に対するイリヤ・カバコフの言説を研究し，1950 年代後半における「オレフスキー体験」がカバコフの後生の作品にもたらした影響を論じ，その成果の一部を『イリヤ・カバコフ絵本図鑑』で発表した。また同書の解説には，1960-80 年代のソ連児童文学の特徴（主題，モチーフ，プロット，挿絵との関係，出版状況，ソ連の翻訳文化）についての研究成果も反映されている。

なお，研究の成果の一部は来年度以降に発表される予定であり，非公式文化の一例であるモナスティルスキーらの「集団行為」のテクストとパフォーマンス等についても資料の収集と解釈を行った。

さらに，それと平行してソ連崩壊以後の文学の諸問題(ソ連時代の詩の伝統，詩の朗読会というメディアはどのような変容を遂げたの

か)についての研究に着手した。1999 年前後のロシア文学の状況を中心に，詩と文学・文化の役割の変容を，社会的・文化的コンテクストから広く考察するために，「詩の衰退」の背景としての新生ロシアのテレビ・映画の復権について比較的に考察する準備を行った。

研究の成果の一部は，論文，学会発表のみならず，展覧会や講演会等の形で社会に還元することを心がけた。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

1. Вакана Коно, Мотив ”глаза” в ”Москве” Андрея Белого // Андрей Белый в изменяющемся мире. К 125-летию со дня рождения. М.: Наука, 2008. С.489-498.
（鴻野わか菜「アンドレイ・ベールイ『モスクワ』における眼のモチーフ」『変貌する世界におけるアンドレイ・ベールイ　生誕 125 年記念論文集』モスクワ, ナウカ出版社, 2008 年，489−498 頁.）査読無し

2. 鴻野わか菜「ニコ・ピロスマニとチフリス――ロシア・アヴァンギャルドのアルカディア」『モスクワ市近代美術館展――青春のロシア・アヴァンギャルド――』(アートインプレッション，2008 年）98-99 頁. 査読無し

3. 鴻野わか菜「非公認芸術と絵本――イリヤ・カバコフ『世界図鑑』」『ユーラシア研究』第 39 号，2008 年，38-43 頁. 査読無し

4. Вакана Коно, Отношения к миру в искусстве русско-еврейских нонконформистов // Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context. 21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies Series. No.17. (Ed. by Mochizuki Tetsuo). Hokkaido: Slavic Research Center Hokkaido University, 2008. C. 93-109.
（鴻野わか菜「ロシア系ユダヤ人非公式作家の世界観」Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context. 21st Century COE Program Slavic Eurasian Studies Series. No.17. (Ed. by Mochizuki Tetsuo). 北海道大学スラブ研究センター，2008 年，93-109 頁.）査読無し

5. 鴻野わか菜「現代ロシアンアートの 50 年――生きのびるためのアート」『AVANGARD』Vol.4（TGO UNIVARTO, 2008 年）8-12 頁. 査読無し

6. 鴻野わか菜「イリヤ・カバコフのトータル・インスタレーションにおけるリアリティ」『スラヴィアーナ』No.21（スラヴィアーナ，2006 年）3-13 頁. 査読無し

〔学会発表〕（計 3 件）

1. 鴻野わか菜 Отношения к миру в искусстве русско-еврейских нонконформистов（ロシア系ユダヤ人非公式芸術家の世界観）
北海道大学スラブ研究センター2006 年度冬季国際シンポジウム《Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context》2006 年 12 月 15 日（於北海道大学スラブ研究センター）

2. 鴻野わか菜 Московский концептуализм в контексте 1960 гг. (1960 年代のコンテクストにおけるモスクワコンセプチュアリズム)
2006 年 11 月 17 日　1960 年代社会文化現象国際セミナー（於モスクワ・国立ロシア人文大学）

3. 鴻野わか菜「イリヤ・カバコフのトータル・インスタレーションにおけるリアリティ」
《第２回スラヴィアーナ・シンポジウム：創作におけるリアリティ――ロシア・ソビエト文化と現在》2006 年 7 月 28 日（於東京外国語大学本郷サテライト）

〔図書〕（計 2 件）

1.『戦争と表象／美術　20 世紀以後』長田謙一編（美学出版，2007 年）担当部分：鴻野わか菜「ロシア映画の転換期――ソ連崩壊・戦争・民族」341－359 頁.

2.『イリヤ・カバコフ絵本図鑑』企画・監修：神奈川県立近代美術館（リーヴル, 2007 年），担当部分：鴻野わか菜「『オーシャと友達』イリヤ・カバコフとユダヤ」345－351 頁.

〔その他〕
1. 講演「イリヤ・カバコフ　作家と絵本」2008 年 7 月 19 日（於足利市立美術館）

2. 講演「イリヤ・カバコフの絵本」2007 年 12 月 8 日（於広島市現代美術館）

3. シンポジウム企画・司会　日本ロシア文学会プレシンポジウム《生きのびるためのアート　ロシア美術の最前線》2007 年 10 月 26

日（於千葉大学）

4. 講演「イリヤ・カバコフ　作家と絵本」
2007 年 10 月 13 日（於神奈川県立近代美術館）

６．研究組織
(1)研究代表者
鴻野　わか菜（KONO WAKANA）
千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：５０３５９５９３